国立科学博物館
National Museum of Nature and Science

貝類展

人はなぜ貝に魅せられるのか

The Shell Exhibition: Why Are People Fascinated by Shells?

2024 11.26 TUE → 2025 3.2 SUN

国立科学博物館（東京・上野公園）**日本館1階企画展示室および中央ホール** National Museum of Nature and Science (Ueno Park, Tokyo)

開館時間 9:00–17:00
※入館は閉館時刻の30分前まで

休館日 月曜日（月曜日が祝日の場合は火曜日） 12月28日（土）–1月1日（水・祝）
※ただし12月23日（月）・2月17日（月）は開館

入館料 一般・大学生630円（団体510円）
※常設展示入館料のみでご覧いただけます ※団体は20名以上 ※高校生以下および65歳以上は無料

主催 国立科学博物館　お問い合わせ TEL 050-5541-8600（ハローダイヤル） FAX 03-5814-9898 https://www.kahaku.go.jp/

国立科学博物館
National Museum of Nature and Science

貝類展 ―― 人はなぜ貝に魅せられるのか

貝類は食料としてだけではなく、装飾品などの素材として、人類の生活を支えてきました。
そして現代においても、さまざまな形で人々の生活や文化を彩り続けています。
貝類の持つ生物学的な特性や多様性は、古代より私たちを魅了してきたのです。
本展では、その奥深いシェル・ワールドのエッセンスを紹介します。

序章 貝類の世界

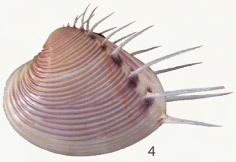
1

2

貝類とは、無脊椎動物の一群である軟体動物の中で、炭酸カルシウムの殻をもったものを指すことが一般的ですが、広い意味では貝殻をもたないものも含みます。地球上に繁栄する貝類は、どのように誕生し、発展してきたのか。ここではまず貝類の進化の道筋をみていくとともに、その驚くべきサイズの多様性についても紹介します。

3

第1章 貝類の多様性の成り立ち


4

5

地球上に10万種以上存在するといわれる軟体動物は、体のおおまかなつくり（体制）だけでなく、生息環境や生態、貝殻の形態など、さまざまな面で著しく多様性に富んでいます。貝殻を失う方向に進化した貝類もあります。ここでは、まず軟体動物の全体像を示し、そしてさまざまな角度から多様性とその要因についてみていきます。

第2章 人類と貝類の長い関わり
―先史時代～現代

人類と貝類の関わりは先史時代から今日に至るまで続いています。食料が乏しい時期には、貝類は人類の生活を支える安定した食料となっていました。一方、貝殻も利器、装飾品などの素材として利用されてきました。さらには神事や遊びなどの文化にも関わるようになるなど、単なる天然物を超えた存在となっています。

6

7

第3章 人類と貝類の深い関わり
―貝に魅せられた人たち

現代における究極の人類と貝類の関わりは、貝殻のコレクションといえるでしょう。標本化が容易で、長い年月にわたって保存が可能な貝類は、生物コレクションの代表的なものとして多くの人たちを惹きつけてきました。ある地域の種をすべて集めることを目指したり、特定の分類群に専念したり、関わり方はさまざまです。

8

9

第4章 貝類とこれからも長く関わり続けるために

人類と貝類には長くて深い関わりがありました。そして現在、状況は大きく変わりつつあります。たくましく地球上で発展してきた貝類も、近年の環境の改変や地球規模の変動の影響を受けています。食をはじめとした人との関わりにも変化がみられます。ここでは、現在の状況を把握し、未来に思いを巡らせます。

10

アクセス
JR「上野」駅（公園口）から徒歩５分
東京メトロ銀座線・日比谷線「上野」駅（7番出口）から徒歩10分
京成線「京成上野」駅（正面口）から徒歩10分
館内に駐車場および駐輪場はございません

〒110-8718
東京都台東区上野公園 7-20
ハローダイヤル：050-5541-8600
※詳細はホームページをご覧ください。

序　章	1.ミジンワダチガイ　2.*Pelecyogyra fezouataensis*
第1章	3.メオトヤドリニナ　4.マボロシハマグリ　5.ハリナガリンボウ
第2章	6.貝輪（ゴホウラ）　7.貝合わせ（ハマグリ）
第3章	8.アダンソンオキナエビス　9.ウミノサカエイモ
第4章	10.ますほの小貝（チドリマスオ）